



八中だより



第18号

令和8年1月15日

府中市立

府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年250名、二学年218名、三学年245名
 全校生徒数713名

〈学校住所・電話番号〉
 〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
 電話 〇四二(三六四)一八八一

★地球のちようど反
 対側の国、パラグアイ
 日本語学校の生徒
 会の方々と交流を
 行う予定です。お楽
 しみに！

『米と麺(三年生からインタビューを受けて...)』

校長 高汐 康浩

十二月のある日の昼休みに三年生のフロアーを歩いていたら、何人かの生徒に、「校長先生は、米と麺のどちらが好きですか？」と尋ねられた。少し考えて「米」と答えた。でも、実は、麺も大好きだ。

ところで、「平成の米騒動」という言葉を知っているだろうか。平成五年に、日本は記録的な冷夏に見舞われた。冷夏の原因は、二十世紀最大級ともいわれる平成三年六月のフィリピン・ピナトウボ山の噴火が原因で発生したと考えられている。夏の気温は平年より三度以上も下回ったのだ。その結果、天候不順による冷害によって、日本で栽培されていたイネの記録的な生育不良が起きたのだ。コメの食糧市場は混乱し、このことは、世界のコメ市場にまで波及したのだ。これを「平成の米騒動」と呼んでいる。

この騒動の中で、消費者はもちろん、卸売業者までもが米の確保に奔走(ほんそう)した。小売店の店頭から米が消えるなどの混乱が発生する中、普段は米を扱わない業者までもが、消費者の関心を集めるために米を仕入れて販売するといったケースも発生した。米が不足すると価格が高騰する。これを回避すべく、外国から米の緊急輸入を進めたのだ。その年に、中国から一〇八万トン、タイから七七万トン、アメリカ合衆国から五五万トン、オーストラリアから一九万トンの米を輸入した。

輸入先の国々は、元々、米を主食にしている国だけではない。米が主食でも日本の米とはずいぶん異なる米の場合もあった。でも、輸入によって量的不足は解消されたが、日本で生産している米は「ジャポニカ米」であるのに対して、輸入米の多くが「インディカ米」であったため、日本人の中には輸入米に違和感があったり、食べるのを敬遠したりした人が多くいた。

米騒動があった当時、私は伊豆大島の学校で勤務をしていた。米騒動は伊豆大島の学校給食にも影響した。給食のご飯が、ある日からタイから輸入したタイ米になったのだ。タイ米は形が細長い。そして、食感には日本の米のように甘みや粘り気はなく、パラパラしているが、なんとなく感じるいい香りがある。タイ米

を初めて食べる生徒たちは、食感のあまりの違いに驚いていたし、食べるのを躊躇していた。口の中に入れてもうまく呑み込めないなどと言っていたのを思い出す。

「米と麺のどちらが好きですか？」という質問に対して「米」と答えた大きな理由がある。麺は必ずといっていいほど、他の何かとあわせて食べる。例えば、そばの「つゆ」、パスタの「ミートソース」、ラーメンの「汁」などだ。麺だけを食べて「うまいっ!」、こんなことはあまりない。でも米はどうだろうか。私は、ときどき無性に米だけを食べたくなる。皆さんはどうだろうか。そんなとき、何もつけずに米を頬張(ほおば)ると、「うまいっ!」と感じるのだ。日本の米、ジャポニカ米だけでなく、タイ米でもインドで食べられるタイ米よりもさらに長細いバスマティ米でも同じく、米だけを食べてもとてもおいしい。そして、日本の米は格別であり、炊き立ての米の香り、食感、風味、味どれも最高である。こんな理由から、私は「米」と答えたのだ。先ほどは、麺だけで食べてうまいと感じることはあまりないと言ったが、実は、唯一、麺だけをたべてうまいと感じるものがある。それは、ここ武蔵野で栽培されている小麦で作られた「武蔵野うどん」だ。このうどんの特徴は、太くてかなり強いコシがある。そして、色は茶色だ。皆さんは食べたことがあるだろうか。この「武蔵野うどん」は、そのまま食べても、とーってもうまい。味、小麦の豊かな風味と香り、食感すべてが抜群だ。

インタビューを受けた次の日、インタビューアの生徒に逆インタビューをした。「米を使った料理といえは？」という質問だ。生徒たちは、「チャーハン」「カレーライス」「ロコモコ」「いくら丼」「かつ丼」「オムライス」「炊き込みご飯」「おにぎり」「お茶漬け」「すし」「おはぎ」など比較的ポピュラーな料理を挙げていた。八中生の皆さんには、この機会に米の食文化について調べてみることをお勧めしたい。たくさん「発見」があるはずだ。米を使った料理、その地域の独特の米の料理などをまず調べてほしい。また、赤飯、いなりずしなど一つの料理だと思われがちだが、地域によってずいぶん違う。ちまき、笹巻、なれずし、鶏飯(けいはん)、ジュシー、こねつけ、冷や汁、きりたんぼ、五平餅など聞いたことも食べたこともない米料理がたくさんあることに気付き、関心が高まるだろう。

お知らせ

思春期は、心身ともに大きく成長する時期だからこそ、悩みをもつことがあります。悩みを抱えてしまつて困っているときに、相談できる相談窓口はたくさんありますので、『♡♡安心♡♡』してください。リーフレット「不安や悩みがあるときは：一人で悩まず、相談しよう」「相談するとうなるの?」「保護者向け相談窓口一覧」と「TOKYOほっとメッセ」デジタルを紹介いたしますので、活用してください。下の二次元コードから、またはURLをクリックすることでアクセスできます。



対話 発見 授業のようす 表現 決定

十二月十八日(木)の昼休みに2年生の生徒たちが理科室で実験をしていました。理科の授業で学習した「偏西風」についての疑問を解決するために、高田非常勤教員が手作りした実験器具で「コリオリの力」の実験をしました。生徒たちは授業をとおしてたくさん「疑問」をもち、実験をとおしてたくさん「発見」をしています。「コリオリの力」は高等学校の地学、物理の学習内容です。



二月九日(月)の全校朝会から一校時の時間まで、南米の音楽に親しみ、外国の音楽や文化に興味をもつ機会として、南米の楽器の演奏会と南米の音楽に親しむための講演会を実施します。講師は島根県の小学校で校長先生をされていた横田裕二先生です。当日は、とても珍しいバンドネオンの演奏をはじめ、南米のさまざまな楽器の演奏があります。



活躍する八中生

【敬称略】

- ★卓球部★
 - 第22回 ニッタク杯招待卓球大会
 - 男子団体 第3位 小川 歩優樹 中山 和飛 谷本 雅弥
 - 森川 優人 植村 頼人 土井 遣士
 - ★バレーボール部★
 - 第4回 中学校女子バレーボール芦花カップ
 - 優秀選手賞 小林 ももは
 - ★読書感想文コンクール★
 - 都佳作 大島 己裕姫
 - ★府中市中学生人権作文★
 - 優良賞 井川 凪
 - 優良賞 浄徳 雄馬
- ※学校外でのスポーツ活動、文化活動等における生徒の活躍について学校だよりで紹介しますので、受賞等があった場合は学校報担任にご連絡ください。



<https://www.fuchu-tokyo.ed.jp/fuchu08c/02gaiyou/15108533456459d8e4a01a420230509142348.html>

<https://ijime.metro.tokyo.lg.jp/message/>

Topics

校外で不審者に遭遇した想定で避難訓練を実施!



「実効的な学校安全」を実現するために、本年度も学校安全の取組でさまざまな工夫をしています。災害安全、生活安全、交通安全ではすべてを想定内には無理があります。大切なことは子どももおとなも危険な場面に遭遇したときに、それまでの学習が活かされ、最大限の安全な行動を起こすことができる、ということです。そのために、本校では安全教育、安全管理、組織活動を意図的、計画的に行っているところです。そして、本年度は、学校安全を主に担当する組織を新たに設置し、安全指導主任を担う教員を置きました。そして、安全指導主任を中心に、避難訓練の改善を推進しています。本校で本年度実施したさまざまな避難訓練は、全国の学校等の参考事例としていろいろな場面で紹介されています。

十一月に実施した「校外で不審者に遭遇した想定」の避難訓練では、生徒の皆さんは、

- ★不審者に遭遇しないための危険を予測し回避する行動
- ★万が一、不審者に遭遇して接触してしまった場合の最適な行動

について、主体的に考えました。

公園で高校生らしき若者から「たばこを誘われる場面では、多くの生徒の皆さんは、はっきりと断り、すぐに警察に通報する行動を起こす判断をしています。しかし、はっきりと断ることで、その場で「暴力」を振るわれたり、事後にうらみをもたれたりするのではないかと心配も同時に挙げられました。事後の安全にも考えが及び、そのことへの対処も考えることができています。

次に、甘い言葉で薬物と思われるサプリメントを使わないか、と誘われる場面でも、生徒の皆さんは、はっきりと断り、その事実をすぐに大人に伝え警察に通報する判断をしています。

いずれにせよ、怪しい人に近付かない、万が一、遭遇した場合は今回の訓練を活かし適切な行動をできるようにしましょう。

「道徳授業地区公開講座」講師の 桐田寿子 様から 著書の『ASUKAモデル』の誕生を寄贈いただきました

二〇一一年九月二十九日 駅伝選手会に参加していた小学六年生の桐田明日香さんが突然倒れ、救命のチャンス逃したまま帰らぬ人となりました。この悲劇を二度と繰り返さないために、遺族と教育委員会、専門家協力して生み出したのが「ASUKAモデル」です。

「ASUKAモデル」誕生の経緯、そして一つの命が遺した大きな教訓と希望を、遺族の想い、論議関係者の座談会を通して伝える本です。

本書は、図書室の「ASUKAモデル」コーナーにありますので、ぜひ、お読みください。

